

# 平成27年産「アルプス米」てんたかく・てんこもり栽培こよみ (JA米)

コシヒカリとの組合せで、気象変動リスク回避と作業の分散！

アルプス農業協同組合  
アルプス農協管内農業技術者協議会

## てんたかく

収量構成の目安

収量構成	目安	収量構成	目安	収量構成	目安
㎡当たり穂数(本)	450	㎡当たり着粒数(粒)	29,000	玄米千粒重(g)	22
1穂着粒数(粒)	65	登熟歩合(%)	88		

管理のポイント	4月	5月	6月	7月	8月	9月
<b>土づくり</b> ● 稲わらの腐熟促進のため、秋耕しを行い、排水溝を掘る。 ● 注肥資材や堆肥を施用する。	<b>育苗期</b> ● 代かきは、均平に努め、練りすぎに注意する。 ● ゆっくりと耕し、作土を15cm以上確保する。	<b>健全育成</b> ● 田植え時期に応じた計画的な育苗を行う。 ● 田植え本数は株当たり3〜4本。 ● 植付深さは30cm。 ● 植付密度は原則坪当たり70株を確保。 ● 苗箱施薬による防除を実施する。 ● 基肥は基準量を守る。	<b>有効分げ時期</b> ● 活着後は、浅水管理をする。 ● 溝掘りは確実に ● 5mに1本を目安に溝を掘る。	<b>無効分げ時期</b> ● 中干しは適期に開始 ● 強すぎる中干しに注意する。 ● 田植え1か月後頃を目安に開始する。	<b>幼穂形成期</b> ● 適正な穂肥 ● 幼穂形成期から飽水管理。 ● 20頃にエスアイ加里または注肥加里を施用する。 ● 中干し後は幼穂形成期まで間断かん水を行う。	<b>穂ばらみ期</b> ● 除草の徹底 ● 1回目(出穂前)は必須 ● 2回目は穂肥期 ● 3回目は穂肥期 ● 生育ステージに合わせて防除を実施する。
<b>作業日程の目安</b> 5/5 田植え → 5/12 播種 → 5/15 撤出 → 5/27-31 田植え → 6/5-10 中干し → 6/10-15 溝掘り → 7/1 刈り散布 → 7/14 一斉刈り → 7/24 防除 → 8/12-14 落 → 8/19 刈取り → 9/12-14 土づくり						

## てんこもり

収量構成の目安

収量構成	目安	収量構成	目安	収量構成	目安
㎡当たり穂数(本)	450	㎡当たり着粒数(粒)	31,000	玄米千粒重(g)	22.5
1穂着粒数(粒)	70	登熟歩合(%)	85		

管理のポイント	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
<b>土づくり</b> ● 稲わらの腐熟促進のため、秋耕しを行い、排水溝を掘る。 ● 注肥資材や堆肥を施用する。	<b>育苗期</b> ● 代かきは、均平に努め、練りすぎに注意する。 ● ゆっくりと耕し、作土を15cm以上確保する。	<b>健全育成</b> ● 田植え時期に応じた計画的な育苗を行う。 ● 田植え本数は株当たり3〜4本。 ● 植付深さは30cm。 ● 植付密度は原則坪当たり60〜70株を確保。 ● 苗箱施薬による防除を実施する。 ● 基肥は基準量を守る。	<b>有効分げ時期</b> ● 溝掘りは確実に ● 5mに1本を目安に溝を掘る。	<b>無効分げ時期</b> ● 中干しは適期に開始 ● 強すぎる中干しに注意する。 ● 田植え1か月後頃を目安に開始する。	<b>幼穂形成期</b> ● 適正な穂肥 ● 幼穂形成期から飽水管理。 ● 20頃にエスアイ加里または注肥加里を施用する。 ● 中干し後は幼穂形成期まで間断かん水を行う。	<b>穂ばらみ期</b> ● 除草の徹底 ● 1回目(出穂前)は必須 ● 2回目は穂肥期 ● 3回目は穂肥期 ● 生育ステージに合わせて防除を実施する。	<b>登熟期</b> ● フェーン時はあらかじめ入水する。 ● 刈取り予定日の5〜7日前まで間断かん水を行う。
<b>作業日程の目安</b> 5/10 田植え → 5/17 播種 → 5/20 撤出 → 5/27-31 田植え → 6/5-10 中干し → 6/10-15 溝掘り → 7/1 刈り散布 → 7/14 一斉刈り → 7/24 防除 → 8/12-14 落 → 8/19 刈取り → 9/12-14 土づくり							

### てんたかく・てんこもり 除草剤散布は遅れずに

■ 雑草防除体系 ● 軟弱苗には使用を避ける。● 除草剤散布後7日間は落水やかけ流しはしない。

移植当日	移植後	移植後日数	移植後日数
移植時	1 2 3 4 5	6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19	20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

初期剤  
メテオフロアブル 500ml/10a (移植時・移植後後〜5日まで)  
メテオ1キ口粒剤 1kg/10a (移植時・移植後後〜5日まで)

初期剤  
マージェット 1キ口粒剤 1kg/10a (移植後3〜5日まで)

初期剤  
ビッグシューアース1キ口粒剤 1kg/10a (移植時・移植後後〜ノビE2.0葉期まで)  
サラブレットRXフロアブル 500ml/10a (移植後後〜ノビE2.0葉期まで)

初期剤  
プラスワンジャンボ 500g/10a (移植後3日〜ノビE2.0葉期まで)  
アビロトップMX1キ口粒剤51 1kg/10a (移植後3日〜12日)  
プラスワン1キ口粒剤51 1kg/10a (移植後7日〜12日)  
アビロトップMX1ジャンボ 500g/10a (移植後3日〜ノビE3.0葉期まで)

中期剤  
ファイナルJSM1キ口粒剤 1kg/10a (移植後20〜30日 / ノビE3.5葉期まで)  
サンパンチ1キ口粒剤 1kg/10a (移植後20日〜ノビE3.0葉期まで) (但し、収穫60日前まで)

● 雑草が残った場合  
○ フォローアップ1キ口粒剤 (ヒエ・広葉雑草) 1kg/10a 移植後25日〜ノビE5.0葉期まで (但し、収穫60日前まで)  
● 雑草防除  
○ パラグランド剤 (広葉雑草) 3〜4kg/10a 落水散布 移植後15〜50日 (但し、収穫60日前まで)  
○ クリンチャー1キ口粒剤 (ヒエのみ) 1.0kg/10a 移植後7日〜ノビE4.0葉期まで 1.5kg/10a 移植後25日〜ノビE5.0葉期まで (但し、収穫30日前まで)  
○ ヒエクリン1キ口粒剤 (ヒエのみ) 1kg/10a 移植後15日〜ノビE4.0葉期まで (但し、収穫45日前まで)

初期除草剤の適正使用  
① 代かきから田植えまでの日数を長くしすぎない。  
② 軟弱苗の使用や極端な浅植えを選び、適切な水管理を行う。  
③ 葉害軽減のため、初期除草剤マージェット1キ口粒剤は移植後3日以降の使用と行う。  
● 田植え同時除草剤は、移植と同時に施薬するため葉害を受けやすいため、上記①②を守り、田植え後の入水をゆるやかにする。

てんたかく・てんこもり 品質向上は「土づくり」から  
■ 土づくり資材の施用基準  
資材名 標準施用量(kg/10a) 資材名 標準施用量(kg/10a)  
粒状イカル 200 シリカロマン 100  
元氣(新) 100 シンケイ土P 100  
■ 深耕の実施  
現状+3cmで15cm以上作土層の確保

### 適期に適正な農薬使用で安全・安心な米づくり

■ 病害虫防除体系

てんたかく・てんこもり 苗箱施薬  
農薬名 ルーチンアスピノブ粒剤 50g/箱 Dr.オリゼフェルラ粒剤 50g/箱  
播種時〜移植当日 緑化期〜移植当日

てんたかく 本田防除 ● 防除間隔は7日を目安に (間隔が長ならないよう注意)  
農薬名 粉剤 液剤  
出穂前(必須) 出穂前(随時) 穂肥期 穂肥期  
ブラシバ(バタ)粉剤DL 4kg/10a (収穫14日前まで) ラブサイドキラップ粉剤DL 4kg/10a (収穫7日前まで) スタークル粉剤DL 3kg/10a (収穫7日前まで)  
ブラシバ(バタ)フロアブル 1000倍 150g/10a (収穫14日前まで) ラブサイドフロアブル 1000〜1600倍 150g/10a (収穫7日前まで) キラップフロアブル 1000〜2000倍 150g/10a (収穫14日前まで) スタークル液剤10 1000倍 150g/10a (収穫7日前まで)

てんこもり 本田防除 ● 防除間隔は7日を目安に (間隔が長ならないよう注意)  
農薬名 粉剤 液剤  
出穂前(随時) 出穂前(随時) 穂肥期 穂肥期  
ブラシバ(バタ)粉剤DL 4kg/10a (収穫14日前まで) ラブサイドキラップ粉剤DL 4kg/10a (収穫7日前まで) スタークル粉剤DL 3kg/10a (収穫7日前まで) キラップフロアブル 1000〜2000倍 150g/10a (収穫14日前まで) スタークル液剤10 1000倍 150g/10a (収穫7日前まで)

● てんこもりについては前年にもち病、紋枯病が発生した常発地等では出穂前防除が必要です。

### 土壌に応じた適正な施肥量を

てんたかく 施肥基準 (5/5植え) ※側条施肥の場合  
土壌区分 基肥一発体系 基肥 分条体系 穂肥 標準施用量(kg/10a)  
砂壌土 肥料名 施用量(kg/10a) 肥料名 施用量(kg/10a) 肥料名 施用量(kg/10a) 肥料名 施用量(kg/10a)  
40 BB基肥206または燐加安403 40 35 10 13  
35 BB基肥206または燐加安403 35 35 10 12  
30 BB基肥206または燐加安403 30 30 10 10

てんこもり 施肥基準 (5/10植え) ※側条施肥の場合  
土壌区分 基肥一発体系 基肥 分条体系 穂肥 標準施用量(kg/10a)  
砂壌土 肥料名 施用量(kg/10a) 肥料名 施用量(kg/10a) 肥料名 施用量(kg/10a) 肥料名 施用量(kg/10a)  
45 BB基肥206または燐加安403 45 40 13 13  
40 BB基肥206または燐加安403 40 35 10 12  
35 BB基肥206または燐加安403 35 30 10 10

生育量を確保するために、基肥量はしっかりと施用する。

◎ 高品位・低コスト生産に カントリーエレベーターを積極的に利用しましょう！